

魚津市立住吉小学校



住吉の輝きを星の杜へ

本校は、明治6年、恩斉小学校と清流小学校として創立しました。明治7年に慶雲小学校に統合し、その後、幾度も校名や位置を変え、昭和29年に現在の校地に移り、名称も住吉小学校となりました。

本校の校庭に、樹齢150年以上の「ひいらぎ」の木があります。この木は、明治の慶雲小学校の校庭にありました。幾度の校舎の移転が行われましたが、この「ひいらぎ」の木は、その度に新しい校庭に移植され、そして、今の住吉小学校の校庭にあるのです。「ひいらぎ」の木は、ずっと住吉の子供たちを見守ってきています。

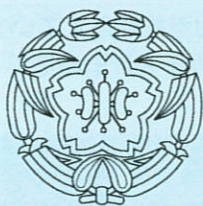
本校は、地域とのつながりが深く、毎年、地域の高齢者と昔の遊びなどを通して触れ合う「フレンド集会」を行っています。子供たちは、あや取りなどの昔の遊びや縄ないを教えてもらいながら楽しく交流を深めています。たくさん的高齢者にご協力いただいている住吉の自慢できる活動です。

閉校の年となる本年度、住吉小学校の伝統をより一層輝かせようという思いから、企画委員会の子供たちが中心となって、児童会スローガンを作りました。このスローガンを合い言葉に、子供たちは、学校行事や縦割り班活動、委員会活動などに取り組んでくれました。最後となる運動会では、一生懸命競技や応援をする姿、市小学校音楽会では、心に伝わる歌声がありました。縦割り班活動のサツマイモほりや秋の遠足では、楽しそうな笑顔と低学年の子供たちを気遣う姿がありました。輝く子供たちの姿をたくさん見る事ができました。

この子供たちの素晴らしさは、「住吉小学校の伝統」として、星の杜小学校へ繋いでいかれることでしょうか。

長い歴史に幕・統合 新たに「星の杜小学校」に

魚津市立上中島小学校



ふるさととともに

本校は、明治10年に早月小学校として創校されて以来、通学区域の変更や校舎の移転、校名の変更を重ねながら、昭和27年の魚津市制施行に伴って現在の校名になりました。142年間に渡って地域文化の拠点としての役割を果たし、時代の要請に応えつつ、数多くの人材を輩出してきた本校も閉校の時を迎えています。

すくすくと育って欲しいという地域の願いに応えるべく、立山連峰に見守られながら、早月川のせせらぎと豊かな緑につつまれた自然を生かして教育活動を展開してきました。文部省や小教研の道徳研究指定、保健・体育活動の充実、縦割り班によるグリーン活動や異学年交流、米作りを核とした世代交流事業などに積極的に取り組んできました。これらの活動は、「学童是我子」という地域の温かい眼差しと団結力のある保護者に支えられてきたものです。その成果は学習や保健分野での数々の表彰という形になって表れています。そして何よりも、素直で、元気いっぱい活動する子供たちの姿に表れていると思えます。

会議室の棚には、昭和24年の発刊から今日まで続く文集『桜窓』が並んでいます。子供たちの思いが輝く、文字通り『窓に映し出された心のアルバム』として続いてきたものです。そこには、子供たちの喜びや感動、満足感、希望、そして家族や友達、地域への感謝の心が表わされています。この心こそが本校が実践してきた教育活動の成果であり、伝統と文化を物語る大切な宝物なのだと思います。

本校の歴史はこれで閉じられ、4月からは「星の杜小学校」として新たな歩みを始めます。上中島小学校の歴史と伝統と誇りが、そして「ふるさと上中島」が、新たな一歩を踏み出し、成長していく子供たちの発展と活躍につながっていくことを心から願います。